

株式会社モリタ 2022 年度歯科健診結果報告

報告者 4 階歯科診療所 歯科医師 前田 憲一郎
衛生士 北波 真依子 大畑 有紀

一昨年度から健診の精度向上（う蝕や歯周疾患見落としを防ぐため）と健診者への説明をわかりやすく行うために診療室にあるレントゲン撮影機を活用しパノラマレントゲン撮影を行っている。

1-1) 全体報告

健診対象者

男性 107 名 女性 74 名 合計 181 名

2022年度			
受診総数	181		
男性	107		
女性	74		
年齢		男性	女性
20代	19	10	9
30代	37	22	15
40代	60	27	33
50代	53	38	15
60代	12	10	2
	181	107	74

	喫煙者数	%	かかりつけ歯科あり	%	う蝕本数	1人平均	平均処置歯数	平均残存歯数	う蝕のある人	%	処置歯の無い人	%
全体	35	19.4	120	66.7	87	0.48	9.2	27.6	47	26.1	13	7.2
男性	33	30.8	63	58.9	68	0.63	9.2	27.6	35	32.7	7	6.5
女性	2	2.7	57	78.1	19	0.26	9.3	27.7	12	16.4	6	8.2

	ブラッシング回数			補助清掃道具使用						ブラッシング				
	(%)	3回以上	2回	1回	使用	歯間ブラシ	フロス	両方	不使用	無回答	時の出血	つまる	口臭	はざしり
全体	93 (51.7)	75 (41.7)	13 (7.2)	141 (78.3)	45 (25.0)	59 (32.8)	37 (20.5)	13 (7.2)	27 (15.0)	38 (21.1)	145 (80.6)	58 (32.2)	77 (42.8)	40 (22.2)
男性	37 (34.6)	61 (57.0)	9 (8.4)	77 (72.0)	33 (30.8)	28 (26.2)	16 (15.0)	12 (11.2)	18 (16.8)	27 (25.2)	84 (78.5)	38 (35.5)	38 (35.5)	17 (15.9)
女性	56 (76.7)	14 (19.2)	3(5.5)	64 (86.7)	12 (16.4)	31 (42.5)	21 (28.8)	0 (0)	9 (12.3)	11 (15.1)	61 (83.6)	20 (27.4)	39 (53.4)	23 (31.5)

本年度は男性 107 名、女性 74 名が受診した。平均年齢は男性 46.0 歳、女性 42.7 歳であった。日本平均の職場や自治体の歯科健診受診率は 13.4%(2023 年日本歯科医師会 歯科医療に関する生活者意識調査)である。モリタ社員のかかりつけ歯科医院にて定期チェックを受診している割合は 66.3%で平均 47.4% (2023 年日本歯科医師会 歯科医療に関する生活者意識調査)を上回った。喫煙率は全国平均（男性 27.1%, 女性 7.6%(2019 年「国民健康・栄養調査」)）であり男性はそれをやや上回り（30.8%）女性は大きく下回っている(2.7%)。かかりつけ歯科医院を持つ割合は平均 67.0%(日本歯科医師会調べ)であり、男性は平均を下回り(58.9%)、女性は上回っている(78.1%)。う蝕本数は 1 人平均男性が 0.63 本、女性が 0.26 本であり、う蝕のある人は男性が 35 人で 32.7%、女性が 12 人で 16.2%、処置歯の無い人は全体で 12 人、男性が 7 人で女性が 5 名であった。

1-2) 年代別報告

a) 喫煙率

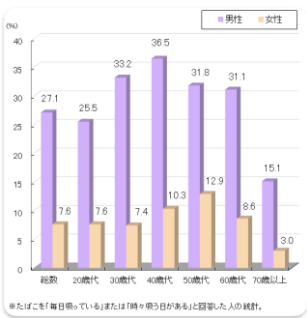
モリタ社員 年代別男性喫煙率

男性		喫煙者数	%
20代	10	3	30
30代	22	6	27.3
40代	27	8	29.6
50代	38	14	36.8
60代	10	2	20

モリタ社員 年代別女性喫煙率

女性		喫煙者数	%
20代	9	0	0
30代	15	1	6.7
40代	33	0	0
50代	14	1	7.1
60代	2	0	0

(参考)日本人平均喫煙率＜厚生労働省「国民健康・栄養調査報告」／令和元年＞



男性は20代と50代で平均を上回った。女性は各年代で平均より喫煙率は低かった。

b) 1人平均現在歯数 (*平成28年歯科疾患実態調査)

現在歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均*
20~24	29.0	
25~29	27.7	
30~34	27.9	
35~39	27.9	
40~44	27.8	28.0
45~49	28.1	27.6
50~54	28.0	26.4
55~59	27.5	25.3
60~64	26.5	23.9

1人平均現在歯数は、全国平均で減少が見られる50代以降でもモリタ社員は28歯を保ち、それ以降の年代でも平均を上回っている。

c) 処置歯のない者の割合

処置歯の無い者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	50.0	4.3
25~29	33.3	3.5
30~34	13.3	2.2
35~39	4.5	1.6
40~44	6.9	0.8
45~49	0.0	0.5
50~54	3.7	0.5
55~59	0.0	2.0
60~64	0.0	1.7

処置歯の無い者の割合は 45 才未満と 50~54 才の年代で全国平均を上回っている。

d) 未処置のう蝕を有する者の割合

処置歯の無い者の割合(%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	50.0	32.9
25~29	26.7	41.9
30~34	20.0	34.6
35~39	18.2	35.3
40~44	17.2	35.1
45~49	40.6	30.2
50~54	18.5	29.5
55~59	33.3	33.5
60~64	27.3	35.0

未処置のう蝕を有する者はモリタ社員では 45~49 才と 20~24 才までの層が日本平均を上回っている。また 55~59 才の層は日本平均とほぼ同じである。それ以外の年代層では平均を下回っている。

e) DMF 歯数

DMF歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
~24	5.0	3.1
25~34	7.5	7.4
35~44	10.0	12.1
45~54	14.5	14.8
55~64	17.2	17.1

DMF 歯数は 24 才以下では平均を上回ったが、それ以外の年代では日本平均と同等であった。

f) 喪失歯所有者率

喪失歯所有者率 (%)		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	0.0	2.9
25~29	6.7	8.1
30~34	6.7	11.5
35~39	9.1	20.5
40~44	17.2	31.1
45~49	15.6	41.1
50~54	29.6	61.5
55~59	37.5	72.8
60~64	81.8	79.2

喪失歯所有者率は 60~64 才以外で大きく平均より良い数値であった。

g) 1 人平均喪失歯数

1人平均喪失歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	0.0	0.0
25~29	0.1	0.2
30~34	0.1	0.2
35~39	0.1	0.3
40~44	0.4	0.8
45~49	0.4	0.9
50~54	0.6	2.0
55~59	0.8	3.1
60~64	1.7	4.6

1 人平均喪失歯数は全ての年代で平均を下回った。

h) 各補綴物の装着者の割合 (%)

各補綴物の装着者の割合 (%)								
年齢	モリタ		義歯	インプラント	日本平均 *		義歯	インプラント
	未補綴	ブリッジ			未補綴	ブリッジ		
20~24	0	0	0	0	98.6	1.4	0	0
25~29	0	0	0	0	95.3	4.7	0	0
30~34	0	0	0	0	97.1	2.9	0	0
35~39	0	0	0	0	88.4	10.0	1.6	0
40~44	86.2	10.3	0	3.4	83.9	16.1	1.2	2.0
45~49	93.8	6.3	3.1	3.1	78.7	20.3	1.5	1.5
50~54	85.2	11.1	3.7	3.7	60.2	34.4	7.2	1.4
55~59	87.5	8.3	4.2	0.0	47.6	46.9	12.2	2.8
60~64	45.5	45.5	9.1	0.0	41.9	46.7	22.8	2.3

補綴物の装着の割合は、どの年代においても補綴物を必要としない割合が平均を上回り、ブリッジ、義歯共に日本平均を下回った。インプラント装着者は 40~54 才の間で平均を上回った。

i) 現在歯の状況(8020 達成者等)

現在歯の状況(8020達成者等) %		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	100	
25~29	100	
30~34	100	
35~39	100	
40~44	100	98.8
45~49	100	99.0
50~54	96.3	95.9
55~59	100	91.3
60~64	100	85.2

全ての年代において 20 本以上歯のあるものの割合は平均を上回っている。

j) 1 人平均現在歯数

1人平均現在歯数		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20~24	29.0	
25~29	27.7	
30~34	27.9	
35~39	27.9	
40~44	27.8	28.0
45~49	28.0	27.6
50~54	28.0	26.4
55~59	27.5	25.3
60~64	26.5	23.9

1 人あたり現在歯数は 40 代前半では平均を下回るが、それ以降の年代では平均を上回る。

k) 歯肉の状況

歯肉の状況 %										
年齢	モリタ社員	4mm以上あるもの				日本平均 *	4mm以上あるもの			
	4mm未満	総数	4~6mm	6mm以上	対象歯無	4mm未満	総数	4~6mm	6mm以上	対象歯無
20~24	25.0	75.0	75.0	0.0	0.0	74.3	25.7	25.7	0.0	-
25~29	20.0	80.0	73.3	6.7	0.0	68.6	31.4	31.4	0.0	-
30~34	6.7	93.3	73.3	20.0	0.0	66.9	33.1	30.2	2.9	-
35~39	13.6	86.4	72.7	13.6	0.0	60.5	39.5	33.7	5.8	-
40~44	6.9	93.1	82.8	10.3	0.0	55.1	44.9	39.4	5.5	-
45~49	9.4	90.6	75.0	15.6	0.0	55.4	44.6	40.6	4.0	-
50~54	29.6	70.4	55.6	14.8	0.0	45.4	54.1	44.5	9.5	0.5
55~59	16.7	83.3	45.8	37.5	0.0	50.6	47.8	37.5	10.3	1.6
60~64	18.2	81.8	54.5	27.3	0.0	38.7	54.1	43.6	14.3	3.4

モリタ社員はどの年齢層においても 4mm 以上のポケットを有するものの割合が高く、また

6mm 以上の深いポケットを有する者の割合も高い。またモリタ社員には対象歯の無い者（無歯顎者）は存在しない。

k) 歯肉出血を有する者の割合、年齢階級別. %

歯肉出血を有する者の割合、年齢階級別. %		
年齢	モリタ社員	日本平均 *
20～24	100	42.9
25～29	86.7	37.2
30～34	80.0	41.7
35～39	86.4	43.2
40～44	89.7	48.0
45～49	100	44.1
50～54	81.5	40.0
55～59	83.3	39.1
60～64	90.9	39.8

モリタ社員は歯肉出血を有する者の割合が全年代において平均の 2 倍以上である。

l) 1 日のブラッシング回数

ブラッシング回数/1日						
(%)		0 回	1 回	2 回	3 回	2 回以上
モリタ社員全体		0	6.8	41.7	51.7	93.4
モリタ社員男性		0	8.4	57.0	34.6	91.7
モリタ社員女性		0	4.1	19.2	76.7	95.9
日本平均		0.4	18.3	49.8	27.3	77.0

モリタ社員は男性、女性ともに 2 回以上ブラッシングをしている者の割合は日本平均よりも高い。また女性社員は 3 回ブラッシングをしている者の割合が非常に高い。

モリタ社員のブラッシング時間

ブラッシング時間	1分	2分	3分	5分	10分	15分	20分以上	無回答
	3	7	22	38	30	9	4	62

3 分から 5 分が一番多い。

m) 清掃補助具使用率

補助器具使用率				
	モリタ社員		日本平均*	
年齢	男	女	男	女
20~24	66.7	100	17.8	22.9
25~29	71.4	75.0	25.3	36.5
30~34	66.7	83.3	25.4	39.6
35~39	61.5	77.8	31.0	48.7
40~44	100	93.3	34.6	54.0
45~49	78.6	100	34.8	54.0
50~54	84.2	100	29.2	54.7
55~59	83.3	83.3	37.0	63.3
60~64	100	100	38.8	60.9

清掃補助器具（デンタルフロスまたは歯間ブラシ）の使用率は男女ともどの年代においても日本平均を大きく上回る。

1-3)唾液検査結果報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
全体	31.6	61.4	25.7	68	54	43.1
男性	34.7	62.8	27.9	71.8	56.5	44.8
女性	27	59.2	22.5	62.4	50.1	40.5

う蝕へのリスクは酸性度が高く緩衝能が低い。歯肉の炎症度合いを示す白血球とタンパク質の値は男女ともに高く、アンモニアの値は低い。

年代別唾液検査報告

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
20代男性	21.0	69.6	18.1	74.5	47.0	27.6
20代女性	34.4	59.4	25.0	63.1	45.9	37.3
30代男性	29.2	53.9	28.4	67.9	48.6	40.4
30代女性	26.9	52.0	15.5	55.0	41.0	31.9
40代男性	37.2	65.4	25.5	78.5	60.1	52.9
40代女性	28.2	62.9	21.7	64.2	55.0	43.2
50代男性	37.8	63.5	32.2	67.6	58.1	48.6
50代女性	23.4	58.9	27.4	62.9	50.5	45.8
60代男性	1.0	55.0	40.0	82.5	58.0	38.0
60代女性	41.4	66.0	27.1	74.9	67.5	34.5

虫歯菌は 60 代女性の数値が高い。酸性度は全年代で数値が高い。緩衝能は 60 代男性以外の能

力が低い。白血球、タンパク質は全年齢において数値が高い。

1-4) かかりつけ歯科医院を持つものとそうでないものの解析

未処置のう蝕の数がかかりつけ歯科医院を持たない者の方が高い数値を示した。

唾液検査にて解析

	かかりつけ歯科医院						
		虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
男性	あり	35.6	61.1	27.5	72.8	55.2	45.4
	なし	33.4	65.3	28.5	70.4	58.3	43.9
女性	あり	27.6	58.8	22.1	61.7	49.5	40.9
	なし	25.9	61.2	24.6	68.1	53.5	40.6

唾液検査ではかかりつけ歯科医院のあるなしで数値の差異は認められなかった。

1-5) 喫煙者と非喫煙者間の解析

	現在歯数	処置歯数	最大ポケット	4mm以上歯数	BOP %
喫煙者	27.6	8.0	4.8	13.1	7.9
非喫煙者	27.8	9.6	4.4	8.0	4.6

喫煙者では4mm以上のポケットがある歯数とBOPが高かった。

	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
喫煙者	34.4	66.9	24.7	68.1	50.9	42.3
非喫煙者	30.9	60.1	26.0	68.0	54.7	43.3

唾液検査では喫煙者と非喫煙者では差は認められなかった。

1-5) 口腔軟組織健診

口腔がんの疑いのあるものは認められなかった。

1-6) その他（生活習慣などに関するもの）

歯科健診の頻度

健診頻度	1~3ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	12ヶ月	なし
	4	29	80	35	62

健診頻度は半年に1回が一番多かった。

使用している歯磨剤（複数回答可）

歯磨剤	チェックアップ	ブリリアント	ハグキプラス	システム	SPT	シュミテクト
	65	32	21	13	7	6

チェックアップの使用率が高く次いでブリリアントの使用が多かった。

食事頻度

食事頻度	1 回	朝夕 2 回	昼夕 2 回	朝昼夕 3 回	間食
	1	2	25	136	40
決まった時間	0	0	13	100	

1 日 3 回、決まった時間に食事をとる人が多かった。

よく口にするもの

よく口にするもの				
コーヒー	チョコレート	お茶	紅茶	その他
102	24	14	11	12

コーヒーとチョコレートを摂取する人が多かった。

運動頻度

運動頻度					
毎日	週3~4回	週1~2回	月1~2回	しない	無回答
11	17	52	39	55	2

考察 1

モリタ社員の口腔内状況は非常に良いと思われる。現在歯数はほぼ 28 であり、喪失歯数は日本平均より少ない。ブリッジなどの欠損補綴を装着している者も少なく、かつ歯の欠損があれば放置せずに補綴処置を受けている。DMFT 数は日本平均と変わらないが、未処置のう蝕をもつ者の割合は低いことから当歯科健診、およびかかりつけ歯科医での健診により早期発見、早期治療につながっているものと考えられる。口腔健康への意識も高く、ブラッシング回数と歯間ブラシやデンタルフロスの使用率が国民平均を大きく上回り、またかかりつけ歯科医の持つ割合が一般より高い。処置歯の無いものが高年齢でも見られることも、この口腔の健康への意識の高さを示しているものと思われる。

一方で歯周組織においては、歯周ポケットの深さ、歯肉からの出血は国民平均より悪い数値が見られた。ポケットの深さに関しては、当診療室では全部位を精密に計測しているため、一般的な健康調査よりも精密な結果が出ていることによる可能性もある。ただし歯肉からの出血、また唾液検査での歯肉の炎症の数値が悪いことから、健診のみでなく在籍する歯科衛生士によるスクレーピングや、口腔衛生指導なども検討してみても良いのではないかと考える。

喫煙率は男性が国民平均と同等レベルであったが、健康に携わる会社としては少し残念な数字であると考ええる。喫煙が歯周病のリスクファクターとされているが、今回の健診においても喫煙者では歯周病の数値が明らかに非喫煙者より悪かった。喫煙はストレス解消の一面もあると

考えられるため、この効果を配慮しつつも代替の方法を提案しつつ、禁煙援助を行なっていくことが良いのではないかと考える。

2) 経年変化

2-1) 対象者

2006年度			2016年度			2018年度			2019年度			2021年度			2022年度				
	受診総数		190	受診総数		299	受診総数		259	受診総数		259	受診総数		166	受診総数		181	
	男性	103		男性	200		男性	147		男性	156		男性	103		男性	107		
	女性	87		女性	99		女性	112		女性	103		女性	63		女性	74		
年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布			年齢分布				
20歳代	54		20歳代	19		20歳代	57		20歳代	58		20歳代	15		20歳代	19			
30歳代	65		30歳代	68		30歳代	57		30歳代	58		30歳代	58		30歳代	37			
40歳代	50		40歳代	69		40歳代	69		40歳代	69		40歳代	69		40歳代	60			
50歳代	20		50歳代	99		50歳代	49		50歳代	52		50歳代	52		50歳代	52			
60歳代	1		60歳代	44		60歳代	27		60歳代	22		60歳代	22		60歳代	12			
年齢分布			190	299			259			259			259			181			
2006	男性	女性	2016	男性	女性	2018	男性	女性	2019	男性	女性	2021	男性	女性	2021	男性	女性		
20歳代	8	46	20歳代	7	12	20歳代	22	35	20歳代	30	28	20歳代	8	7	20歳代	10	9		
30歳代	38	27	30歳代	30	38	30歳代	32	25	30歳代	32	26	30歳代	18	12	30歳代	22	15		
40歳代	38	12	40歳代	46	23	40歳代	34	35	40歳代	38	31	40歳代	26	35	40歳代	27	33		
50歳代	18	2	50歳代	76	23	50歳代	32	17	50歳代	34	18	50歳代	40	9	50歳代	38	14		
60歳代	1	0	60歳代	41	3	60歳代	27	0	60歳代	22	0	60歳代	11	0	60歳代	10	2		
103			87	200			99	147			112	156			103	107			73

今年度の受診者は前年度より増加した。

2-2)

かかりつけ歯科医を持つ年代別割合

年代ごとのかかりつけ歯科医%										
	2006		2016		2019		2021		2022	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
20歳代	50%	48%	29%	33%	20%	48%	38%	50%	70%	89%
30歳代	32%	26%	43%	61%	47%	56%	50%	67%	64%	87%
40歳代	40%	42%	22%	61%	45%	61%	42%	60%	67%	70%
50歳代	50%	0%	55%	57%	56%	67%	43%	45%	45%	79%
60歳代	0%	0%	61%	67%	64%		45%		70%	50%

2022 年度は各年代においてかかりつけ歯科医を持つ割合が増加し、50 代男性以上において過去最高割合を記録した。

2-3) う蝕

	2006	2016	2018	2019	2021	2022
1 人あたりう蝕の数	0.35	0.1	0.15	0.15	0.46	0.48

1 人あたりのう蝕の数は 2022 年度において微増した。

2-4)喫煙率

喫煙率	2006	2016	2018	2019	2021	2022
全体	22%	23%	22%	23%	18%	19%
男性	39%	30%	30%	35%	27%	30%
女性	3%	7%	11%	5%	7%	3%

喫煙率は男性で微増し、女性は減少した。

2-5) 唾液検査

	人数	虫歯菌	酸性度	緩衝能	白血球	タンパク質	アンモニア
全体2022	180	32	61	26	68	54	43
全体2021	166	36	57	29	67	56	46
全体2020	188	26	52	31	67	54	39
男性2022	107	35	63	28	72	57	45
男性2021	103	44	60	32	90	74	45
男性2020	117	28	51	34	70	57	42
女性2022	73	27	59	23	62	50	41
女性2021	63	31	59	28	58	45	51
女性2020	71	23	55	25	64	51	35

※赤字は前年より悪化、青字は改善

唾液検査の前年との比較では、男性において虫歯菌と白血球、タンパク質の数値の改善が認められた。女性ではタンパク質の数値の悪化が認められたが、アンモニアの数値は改善が認められた。虫歯菌は男女ともに数値が悪化、酸性度、白血球、タンパク質は男性で悪化、アンモニアは女性での悪化が認められた。

考察2

受診者の増加、かかりつけ歯科医院を持つ人が多くの年代層で過去最高となり、いずれも新型コロナウイルス感染症の増加に伴う受診控えが一段落したと考えられる。唾液検査でもいくつかの項目で改善が認められた。

喫煙率は緩いペースで減少が見られているので、前考察で提案したようにさらなる改善が望まれる。

全体考察

現在国民皆歯科健診が政府の方針として取り沙汰される中、以前より会社内で歯科健診をおこなっていることは大変先見の明がある事だと思われる。コロナ禍も収束に近づき、歯科健診の受診者も昨年度より増加した。今年度の健診で昨年発見された治療必要なう蝕や、親知らずの抜歯を行ってくれた方、昨年の検診をきっかけにかかりつけ医でのメンテナンスを再開された方もおられ、健診従事者としては大変嬉しく思っている。今後は現在受診が難しい社員の方も何らかの方法で健診ができればさらにモリタ社員の健康増進に寄与することができれば考えている。また最近も行われていない新入社員への健診も、本人への意識づけ、自分の口腔内を知ることはモリタで働いていく上で大変重要なことと思われる。

2025 年から国民歯科健診の義務化が検討されている。歯科業界を牽引するモリタはこれに先立ち、社員の健診の実施率を現在以上に上げていくことが望ましい。当歯科診療室もこの点には大きく貢献したい。木村、大畑両衛生士が適切に業務をおこなってくれたおかげで順調に健診を行うことができた。両名には心より感謝申し上げる。